

長崎坂道発進

No.127

平成 21 年 8 月 30 日

事務局 電話・FAX 番号 095-819-2508 : 郵便為替口座番号 01740-5-105642 加入者名: 長崎斜面研究会

夏が涼しい。

朝起きたときの、首にまとわりつく汗が？

今年は、まったく無く、なんと快適！！

自然の気まぐれかも。

米や野菜への影響が心配です。

事業計画

ブラリさなか釣り

9月13日(日)午後2時より

場所 畦刈海岸(三重)

みんなで魚釣りを計画しています。釣って、食べて楽しみましょう。

長崎コミュニケーションエイド研究会講習会

10月11日(日)午前10時より午後3時まで

場所 長崎大学中部講堂

本会の共催で、コミュニケーションに障害がある方々を支援する手段についての研修会です。

なんでんかんでん秋まつり

10月24日(土)午前10時より午後2時まで

場所 稲佐山公園

今回は山で行きます。

斜面研究会 秋の討論会(予定)

11月28日(土)か29日(日)

場所 水の浦自治会

音信・訪問

多良見の0さんを訪問: ALSで入院されている0さんが急遽、腎臓結石の手術を受けるために転院されることとなり、急遽、意思伝達装置を移動させることが必要となり病院を訪問しました。かねてから0さんを訪問することを希望されていた ALS 協会長崎県支部の立川さん、熊脇さんも同行されました。久しぶりに会う0さんは、腎臓で熱が2週間ほど前から続いているそうで、この前に比べると、反応も悪く辛そうに見えます。ご主人も心配そう。救急車が来て、諫早の病院に移動。新しい病院でテキパキと受け入れがなされました。(8/4)

2日後に、0さんが入った集中治療室で使えるナースコールを届けました。幸いに、0さんの熱も下がり今日は笑顔が出ています。装置はちゃんと動作しました。(8/6)

鈴田峠のTさんを訪問: ALSで在宅介護を受けておられるTさんを ALS 協会長崎県支部の立川さん、熊脇さんと訪問。Tさんを在宅介護するにあたり、どのようにケアプランを立てたらよいかを同じ病気の家族を持つ熊脇さんがアドバイスすることが目的です。医療保険、介護保険、自立支援制度を上手に組み合

わせることで、家族に負担が少ない介護が可能になります。知っているか知らないかで、介護負担が大きく変わります。介護者を抱える家族にとっての頼もしい立川さん、熊脇さんの訪問でした。その場には、担当の、保健師さん、看護師さん、言語療法士さんも立会い、有意義な集まりでした(8/4)

諫早療育センターのメールへの回答:

メールありがとうございます。皆さんがいろいろ患者さんのために努力工夫されていることを良く知っています。それに対して工学技術を持つものは、それがどのように使われるかを知らない状態です。両者が一緒に連携できたらと常々思っています。

実は、先週までの2週間ですが、長崎工業高校の先生が大学に滞在されて、介護機器の勉強をされました。普段の仕事では、まったく福祉工学に触れることがないのでじっくり学びたいとの理由です。たまたま、依頼があった2名の患者(多系統筋炎、ALS)さんを一緒に訪問し、離床センサと緊急呼出し装置を作り、自宅と諫早総合病院に設置していただきました。このように工学技術を持つ方にもっと福祉分野を知ってニーズに対応していただけたらと思います。今は電気・電子部品が便利となり、さまざまなものがあり、難しいことなく基本を押さえればかなりの介護や福祉関連の装置が作れます。実は私自身は、機械の出身で、電気を学んだのはかなりの部分が独学です。本屋に行って改めて探してみます。

横尾さんがお仕事の合間で、おひとりでのものづくりは大変だと思います。もっと他の人間を利用されたらと思います。例えば、

1) 私の研究室には、4年生が10名、大学院が12名もいます。障害のある子供さんの危機をつくることは良い経験です。

2) また、ある講義で大学生に自由な発想でのものづくりをやらせています。しかし良い課題がなく、横尾さんから、こんなものを作ってほしいとの提案があれば、その講義の中で学生に作らせます。

3) 私の研究室には、大手企業を退職された技術者に方々に集まっただけ外部から依頼があった福祉用具作りをボランティアで行っています。技術者の方は20名ほどです。横尾さんが欲しいものをこの方々に作ってもらうことも可能です。材料費のみで十分です。10年続いている活動です。

世の中には、利用すると便利な仕組み・組織があります。それを知って活用することで大助かりです。

諫早療育センターには以前に2回ほどお世話になりました。女性の大野さんがいられた頃ですから、6年前くらいになります。また一度は、CDカラジカセを子供に使わせるスイッチの相談を受けたと思います。

よろしければ一度、諫早療育センターで会って連携の話はできませんか。このような大学、学生、ボランティアを有効活用していただければ幸いです。お会いする際に、高齢者生活支援研究会のメンバー数人を同行させていただければと思います。

希望されている電気の基礎知識の講義や講習をすることは、受講者が一人でも百人でもいつでもできます。看護の学生さんにタッチセンサを作る講義をしたこともあります。スイッチを入れる、モータを動かすやセンサの活用です。

確かに、外部の人に一方的に作ってもらわばかりでなく、自己能力を高めることももちろん必要です。そのことについての協力も大歓迎です。

現在の対象者は主に、高齢者、特に難病や脳梗塞等で重度障害のかたです。再度繰り返します。一人では大変です。連携・協力が必要です。積極的に協力します。

見守り装置の紹介

長崎大学では、国の資金的支援を受けて、見守り装置を開発しています。例えば、

画像で見守り：離れた所から携帯を使って、家の中の介護者の映像を見ることが出来る装置。インターネットが家で使えることが条件ですが、コンピュータと携帯で簡単にできます。五島で2か所、長崎市内で1か所設置しています。今、これ以外も依頼が来ています。

離床センサで見守り：高齢者のベッド上の有無を検知して、長時間の不在が続けば、無線で家族を呼び出す装置。ベッドのシーツの下に、布のみで作ったセンサを取り付けて作ります。大学で開発したセンサで、現在は長崎市内の高齢者に使ってもらっています。

使ってみたい、試してみたい方は事務室まで連絡ください。

会員投稿

原爆の日に思うこと

石松隆和

長崎原爆の日がやってきました。

この日には、亡くなった博子思い出します。博子は、広島の高女学校生で、広島の自宅で被爆しています。原爆投下時には家に中において、大きなけがや火傷からは助かっています。がれきと化した家から這い出て、朝から川岸の草刈りに動員されていた弟（市立第二高等小中学校生）を探しに壊滅的に破壊された爆心地近くを歩いています。当日に草刈りに動員されていた弟を含む小学生 250 人は、原爆投下直下で作業をしており、全員が亡くなり遺体が見つかったのはわずか 3 人です。博子は弟を探している間に傷ついて手押し車で運ばれる傷ついた友人に会いました。後日に、その友人の親と会いました。親の話によるとその友人はその後の消息もわからず

行方不明になり、遺骨も見つからないと聞きました。

博子は原爆で弟と父親を亡くし、母親と二人で身寄りがある九州唐津に移り住みました。その後、結婚し福岡で暮らしますが、原爆はずっと博子を苦しめることになったはずで。広島原爆の日には、広島を訪ね、弟が亡くなった場所に建てられた慰霊碑を参っていました。

放射線による身体への被害が心配であったことは当然です。昔は被爆者に対する偏見が強く、当然、被爆者であることを隠していました。

広島で、原爆が投下される直前に、博子は家の中でクモを見たことをはっきり記憶しています。それから後、クモを見つける度にパニック状態になりクモを追い回していました。

博子にとって辛いのは、母親が亡くなった息子を忘れられずに、博子の顔を見ては、あの子のほうが生きていたら良かったのと言われることでした。胸が張り裂けそうな思いをしたことは想像できます。

60 歳でパーキンソン病となり、車いすが必要となりました。病気の原因が原爆の影響ではないかと心配していました。子供を 3 人育て、76 歳で、長崎で亡くなりました。外見上は幸せに暮らしたように見えます。しかし、常に原爆が彼女の中にあり、言い知れない不安が心の底に潜んでいたことは確かです。

今月のアレレ!?

機動隊員とおまわりさん：交通規制で主要道路に多くの機動隊員が配置されていました。長崎バイパス入口の交差点にも若い機動隊員が 3 人。その交差点を小学生 1 年生らしき子供 3 人が渡ろうとしていました。機動隊員は子供たちには見向きもせず、3 人で楽しそうに話しています。VIP のための警護が主目的でしょうが、交差点では子供たちも VIP なみの待遇を。おまわりさんと機動隊員の違いを実感。

稼いだ金を親に：ある学生に学生時代に、PR できることがありますかと聞いたところ、クラブはしておらず、バイトをしているくらいでそれ以外は全く無いとの回答。バイトで稼いだお金の使い道を聞いてびっくり。親に生活費として入れているとの返事。不真面目な学生とばかり思っていたが、勝手な思い込みであったことを大反省!!! 良い学生です。

本ニュースは斜面研究会の活動を会員の皆さんに連絡することと合わせて、斜面、高齢者、障害、心、生活、地域をキーワードとした情報を提供することを心掛けています。本ニュースへの、皆さんからの投稿をお待ちしています。投稿原稿は、下記まで。

事務局連絡先：

長崎市文教町 1-14 長崎大学工学部

石松隆和、竹山裕子

Tel. & Fax . 095-819-2508

E-mail ishi@net.nagasaki-u.ac.jp

ホームページ <http://www.shamenken.jp/>